

教育目標	重点目標	活動計画と評価指標		評 価		学校関係者の意見	次年度に残された課題
		活動計画	評価指標	活動計画の実施状況と評価指標の達成度	総合評価（評定）		
1 児童生徒一人一人に応じた学習や生活する力の向上	<p>「小・中・高がつながる」学びの推進</p> <p>【小学部】</p> <p>(1)朝の会、帰りの会において自分の役割を果たしたり思いを表現したりできる力を育てる。</p> <p>【中学部】</p> <p>(2)協働学習や体験活動を通して、自尊感情を育む。</p> <p>【高等部】</p> <p>(3) 地域の方々との貢献活動や教員との対話を通して自尊感情を育む。</p> <p>人権意識を育てる児童生徒指導の充実</p> <p>【教育企画課】</p> <p>(4)児童生徒の自尊感情を育み、学習活動への意欲が高まる教育活動を推進する。</p> <p>【特別活動・保健衛生課】</p> <p>(5)児童生徒会活動の活性化</p>	<p>(1)-1各学級ごとに活動内容を設定し個人目標（役割と意思表示の2項目）を立てる。目標は、児童の実態に応じて3段階の評価点方式とする。</p> <p>(1)-25月に目標の共有会、7月に中間評価、1月に最終評価を行う。評価内容の共有会を8月と2月に実施する。ペア学級を決めておき年間を通して相談と評価を行う。</p> <p>(2)-1協働学習や体験活動の機会を年間10回以上設定する。</p> <p>(2)-2「やってみよう」「作業学習」「職業」「生活単元学習」の年間指導計画の中に協働学習、体験活動を位置付け、事前・事後指導、活動のまとめを行い、発表のを位置付ける。</p> <p>(2)-3事前・事後に、生徒を対象にしたアンケート評価を行う。評価に当たっては、先行研究（渡橋と自尊感情測定尺度：2008～2012）の自己・他者評価シートを生徒の実態に合わせて実施する。</p> <p>(3) 地域貢献活動、自分ノート（キャリアパスポート）、就労支援チェックリスト、GJ（グッドジョブ）プロジェクトなどを通して実践する。事前・事後には生徒へのアンケートを実施する。アンケートは、先行研究（東京都自尊感情測定尺度：2008～2012）の自己評価シートを使用する。</p> <p>(4) 各学部目標に応じた指導目標を設定し、実施・評価する。</p> <p>(5) 児童生徒会活動がスムーズに</p>	<p>(1)-1 対象児童全員について2つの項目についてレベルやパターンを設定した目標を立てることができる。</p> <p>(1)-2中間評価および最終評価において8割以上の児童の評価点が向上する。</p> <p>(2)-1協働学習や体験活動の機会を年間10回以上実施するとともに全生徒が2回以上参加する。</p> <p>(2)-2計画に基づいた活動の実施の後、生徒全員による活動のまとめ、発表を実施・記録する（キャリアパスポート）。</p> <p>(2)-3事後の生徒・教員による自己・他者評価において、事前評価よりも上回る回答を得る。</p> <p>(3) 事前アンケートの結果が平均点より低い生徒を対象に、事後アンケートの結果で自尊感情の向上と見られる回答が増加する。</p> <p>(4) 指導目標を達成した教員の割合が9割以上となる。</p> <p>(5)児童生徒会活動に関する意見交換</p>				

	<p>を図り、児童生徒主体の学校行事の運営を進める。</p> <p>ICTを活用した学習活動の推進 【教育企画課】 (6) 児童生徒の学習意欲や学習理解度を高めるため、ICTを活用した教育活動を推進する。</p>	<p>実施できるように、小中高の教員が互いに連絡や相談の機会を意識的に増やし、活動内容の情報共有を図る。</p> <p>(6) 個々の児童生徒毎の ICT 機器を活用した学習状況・内容を把握するために、教員を対象にチェックシートへの記入を年間2回以上実施する。</p>	<p>の機会を年間3回以上設定する。</p> <p>(6) 全児童生徒数の70%以上が、ICT機器を1回以上使用する。</p>				
2 教職員の専門性・資質・指導力の向上	<p>危機管理体制の整備、安全・安心な学校づくりの推進 【支援・安全課】 (1) 学校危機管理における研修や訓練を通して、教職員の危機管理意識の向上を図る。</p> <p>【特別活動・保健衛生課】 (2) 徹底した感染症予防体制を整え、児童生徒及び職員が安全に安心して過ごすことができる学校環境作りを行う。</p> <p>専門家等と連携した授業研究及び支援方法の改善 【支援・安全課】 (3) 児童生徒の教育目標に応じた指導形態や指導方法の改善を図る。</p> <p>【教育企画課】 (4) 専門性・資質・指導力の向上を目的とし、教職員同士が協働して、互いに助け合い学び合う研修の充実を図る。</p>	<p>(1) 外部専門家と連携した研修や訓練を年間4回以上実施し、事後のアンケートは4件法で調査する。</p> <p>(2) 感染予防と感染症発生時の対応方法について、知識のアップデートとスキルの向上をめざし教職員研修を実施する。</p> <p>(3) 外部専門家と連携し、年間2回以上のコンサルテーションを行う。教育目標や指導内容を設定し、実践する。</p> <p>(4)-1 学部の垣根を越えたメンターチームでの研修を企画し、年間6回以上実施する。</p> <p>(4)-2 授業力向上を目的とした研究協議を企画し、年間4回以上、運営・実施する。事後に4件法によるアンケートを実施する。</p> <p>(4)-3 教職員の得意分野を生かした研修会を企画し、年間6回以上運営・実施する。事後に4件法によるアンケートを実施する。</p>	<p>(1) 教職員を対象とした事後アンケートにおいて、「危機管理意識の向上が図れたか」と回答する割合が8割以上となる。</p> <p>(2) 感染予防と感染症発生時の対応方法についての実践的な研修を年間2回実施する。</p> <p>(3) 実践者によるコンサルテーションの事後評価で、90%以上が「実践研究によって教育目標を達成した」との回答を得る。</p> <p>(4)-1 メンターチームでの研修の参加者に事後評価を行い、90%以上から「研修によって、専門性・資質・指導力が向上した」との回答を得る。</p> <p>(4)-2 授業者に研究協議後の評価を行い、90%以上から「授業力向上に向けて大変有益であった」との回答を得る。</p> <p>(4)-3 研修会の参加者に受講アンケートを行い、90%以上から「今後の指導に生かすことができる」との回答を得る。</p>				
3 家庭・	<p>地域と連携した教育活動の推進 【進路指導課】 (1) 高等部生徒を対象とした校外での実習を充実させ</p>	<p>(1) 前後期就業体験期間、また期間以外でも、必要に応じた校外での</p>	<p>(1) 高等部2・3年生を対象に、1人平均2回以上、校外での実習先で</p>				

<p>地域・関係機関との連携・協働をおとした学校づくり</p>	<p>る。</p> <p>【教育企画課】 (2) 地域と連携した PTA 活動の充実を図る。</p> <p>幼・小・中・高校等への相談・支援体制の充実 【支援・安全課】 (3) 地域や関係諸機関に本校の取り組みについて発信し、特別支援教育の理解や啓発の充実を図る。</p>	<p>実習を計画し、卒業後の進路選択に役立つ体験的な学習を実施する。</p> <p>(2) 近隣の福祉施設等と連携し、保護者の希望を反映した PTA 研修会や施設見学会を実施する。</p> <p>(3)-1地域のセンター的機能の充実や本校教職員の専門性の向上を図るため、公開研修会と校内研修会を夏季と冬季に行う。</p> <p>(3)-2地域の小・中・高等学校等の教職員を対象とした、実践的な指導法に関する研修会を行う。事後に4件法によるアンケートを実施する。</p>	<p>体験を行う。</p> <p>(2) 研修について事後アンケートを行い、「地域福祉施設等の理解が深まった」との回答が8割以上とする。</p> <p>(3)-1冬季には公開研修会、夏季には校内研修会をそれぞれ1回以上行う。</p> <p>(3)-2地域の学校等の教職員を対象とし、教材作りや実践的な指導法についての研修会を年1回以上行う。事後アンケートで8割以上の回答が「よかった」との結果を得る。</p>				
---------------------------------	---	--	--	--	--	--	--